

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 若園 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語、算数)

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

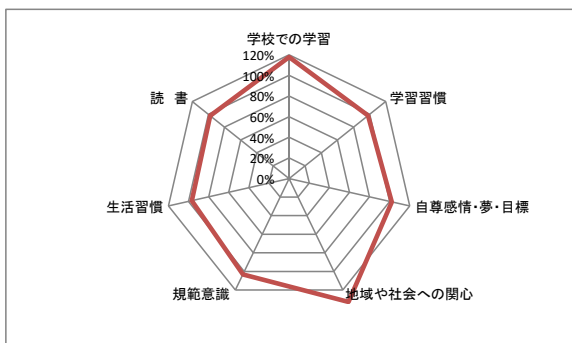
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均正答率の全国との差が、一昨年度(昨年度は未実施)と比べて大幅に縮まり、全国平均に近づきました。とりわけ、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の校正や展開を考えることは全国平均を上回っています。記述式や短答式の問題形式の正答率には大きな伸びは見られたものの、依然課題があります。	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	話の内容が明確になるようにスピーチの構成や自分の主張が明確に伝わるように文章全体や展開を考えること。	下回っている
	努力が必要な問題	漢字を文の中で正しく使うこと。 目的や意図に応じ、資料を使って話すことや目的に応じて中心となる語や文を見付けて要約すること。	

算数	全体的な傾向や特徴など	平均正答率の全国との差が、一昨年度(昨年度は未実施)と比べて大幅に縮まり、全国平均に近づきました。学習指導要領のB図形領域、および短答式の問題では全国平均を上回っています。A数と計算領域、C測定、C変化と関係の領域も、全国平均と同程度ですが、Dデータの活用については課題があります。問題形式では、選択式の解答問題において課題があります。	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	必要な数値を選び、2つの道のりの差を求める。直角三角形の面積の求め方。	下回っている
	努力が必要な問題	データを二次元の表に分類管理する。データを比較し、集団の特徴を捉えるためにデータを集めること。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究をはじめ授業改善の研修や、安定した学級経営を推進してきたため、児童の実態に合った指導ができ、意見の表出や話し合いが活発になされるようになったことから、「学校での学習」に関して、総合的によい評価をする児童が全国平均を上回りました。 ・道徳科の学習を中心に、道徳性や道徳的実践力の育成に努め、夢や目標をもつ児童の割合が全国平均を上回りました。しかし、自尊感情に関しては、依然課題があります。 ・地域行事が盛んで、そうした行事への参加を促してきたため、地域や社会への関心がある児童の割合が全国平均を大きく上回りました。 ・「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と思っている児童は100%で、規範意識は高いです。ただ、毎日の朝食摂取、SNS等の利用時間やルールを守ることなど、生活習慣の安定と充実に関しては、今後も児童への指導と家庭への啓発をしていく必要があります。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・児童が見通しをもって主体的に取り組み、確かな力が身に付くように、日常的に書く活動と話し合う活動を位置付け、児童が自身の考えを表現できるように授業改善を図っていきます。 ・国語や算数の基礎的、基本的な問題を集約した、本校独自の「わかってチャレンジノート」を活用し、今後も継続的に毎日15分間の朝自習に取り組めます。朝自習は週に2回の国語タイム、2回の算数タイム、1回の読書(読み聞かせを含む)タイムとして、全校一斉に取り組むようにしています。 ・GIGA端末などのICT機器を積極的に活用し、主体的に学習に取り組む学習活動を仕組むとともに、既習内容の定着や「話し合う活動」の充実を図ります。 ・文中で適切な漢字を正しく使う課題については、家庭学習も含めドリル学習を徹底し、書いて覚えることを徹底します。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習については、学校の授業時間以外で普段(月～金)、休みの日に1時間以上勉強に取り組むようにしています。自主学習ノート等を活用し、自分で計画を立てさせたり、学習課題を提示したりして、基礎的、基本的な学力の定着を図っています。 ・携帯電話やスマートフォンの使い方については、学級で折に触れて指導するとともに、学校・学年・学級通信等を通して保護者へさらに啓発を図ります。 ・食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣や読書習慣を身に付けていくようにします。 ・みんなで守る「わかって あまがえる+1」の取組をさらに充実させ、学期に一度振り返る場(カード)を設けることで、基本的な生活習慣の安定を図り、今後も互いが気持ちよく生活できるようにします。
--